

佐藤正久参議院議員と永岩防大同窓会会長の対談
(8月8日1330～於参議院議員会館)

永岩会長：佐藤議員のメッセージを頂いて、ホームページに載せようということで同窓会長拝命の御挨拶方々やってまいりました。この度は32万票という非常に大きな御支持を得られて御当選、おめでとうございます。また、ほっとすると共に御双肩に掛かる重さが増えたのではないかと思います、いかがでしょうか？

佐藤議員：1期目と2期目はやはり違うので…。今まで自衛隊で培った人脈、経験と、この6年間参議院議員として培った人脈と経験というものを土台として、さらに2期目としては党であり、国会であり、更に重たい役目が来ると思うので、そういったものを上手く使いながらやって行きたいと思っています。



永岩会長：その中で何が一番重い仕事だとお思いですか？

佐藤議員：これから当面は臨時国会におけるNSC法案と自衛隊法関連では在外邦人の陸上輸送の法改正。秋から年末に向けては大綱・中期。そして来年の通常国会あたりが集団的自衛権、次の臨時国会が安全保障基本法という風になると思いますね。その後、その流れの中で憲法の改正の議論を並行的にされる。憲法改正の前にやるべきこといっぱいありますし、憲法改正がなされた後もまたやるべき法案もいっぱいありますから。

永岩会長：情勢が非常に厳しくなって、そういう意味では、正に時が人を得るという状況ではないでしょうか。

佐藤議員：これからNSCの事務局が出来るとというのが大きな転換点になるかもしれないですね。今までのように防衛省だ、外務省だといっていられなくなりますから。正にそこが中心となって差配してきますから。

永岩会長：その観点でNSC設立に関わる議員の先生方、その他の方も含めて関心、注目度、あるいは方向性というのはどうですか？

佐藤議員：法案の形は大体出来ていますからね。でそれを秋の臨時国会に出して、党のほうともやりますが、大方終わってますので。100点満点ではないのですが、とりあえずそこで今までとは違って事務局を作って、4大臣会合とか従来の9大臣

会合とかをやる。基本的には4大臣会合、5大臣会合をバンバンとやって頻繁に意見交換をやって方向性を決めていくことになるでしょう。

永岩会長：国の大事に関わる事態に対して、刹那的に対応するという時代が非常に長く続きましたけど、日本版NSCの検討ということで、国益を念頭に置きつつ、戦略的に対処できる体制整備ということをご期待しますので、宜しくお願いします。ちょっと質問を変えて、防大の同窓生というキャリアをお持ちで、自衛隊で活躍されて、そして国会議員として活躍をされていらっしゃるが、そういった過去のキャリアをどのように評価されているか、あるいはそれがベースでこういった役割を果たせるということをお聞きしたいのですが。

佐藤議員：私の場合は防衛大学校を入れて自衛隊で27年間お世話になって国会議員になったということで、今居る防衛大学校出身の国会議員は4人です。私とダブル中谷と、宇都君。後、途中で止めた方が尾辻さん。あと1年の途中で止めた高木さんという方が居るのですよ。私と同期の男で、慶応に入りなおして北海道警。



お父さんが道会議員だったので道会議員になってこの間の衆議院選挙で衆議員になった高木ひろひささんというのが居ます。こういう風に今までとは違って防衛とかをキャリアのバックに持った人が増えてきた。これは時代の要請のような気がしますし、その中でも私が多分一番自衛隊の中で長く居た人間なので、防大OBの中でも中堅どころとして国会議員が長い尾辻先生や中谷先生と自衛隊経験も10年ちょっとと若い議員の間に立って色んな役割を果たすことが出来ると。そして5人居ると政党要件を満たしますから（笑）そういった意味でも今までと違ってきたのかなあと。選挙結果の票の出方を見ると、自衛隊だけではなくて増えているのは都市部。自衛隊に全く関係ない都市部が伸びているということは、それだけ安全保障に対する関心が若い人を中心に増えていると。そういう土壌が増えていっているということは政治家の背中を押しますから。そういうことで防衛省、防衛大学校にそういう思いや意識を持って入ってくる人がたぶん増えてくるのだらうと思います。直接関係無いのですが、今回防衛省に入省された国家試験1種の方々、外務省が欲しいといった方々が皆防衛省に来たと。防衛をやりたいと。若い人の意識が変わってきた。外務省の官房長が今回は防衛省が「完勝」ですねと言ったといます。昔だったら外務と防衛といえばこんな感じ(段違いの差)だったのが今は防衛省で安全保障の仕事をしたいと。

永岩会長：それは将来に期待が持てるありがたい話ですね。

佐藤議員：東大とか国家公務員の上級職を受ける人達の意識がそうであれば防衛大学校を受ける人達も意識の高い人達がどんどん入ってきていると思います。そういった人達を如何にうまく育てていくか、期待を裏切らない自衛隊にしていくかが大切。防衛大学校の改革を検討しているようですが、政務官という立場で良いものは良いし、悪いものは悪いと考えています。私は例の「償還金」は反対の立場です。後、高等専門学校3年生から編入するというのも問題が多いと思うので、いい部分はどんどん進めていこうと思いますが問題だと思っているところについては検討が加速化するという状況にはなっていない。止めていますから。学士の枠をどんどん広げていこうというような良いことは進めています。ちょっとそこは士官学校という性格付けとはあまりにもアカデミックすぎるということで出来ないという部分もあると思っているので、その部分は高い意識を持って幅広い視野で柔軟に勉強してもらいたいという部分と、士官学校としての心の基軸線がなまらないような形の改革にして欲しいなと思っています。

永岩会長：私、実は来週防衛大学校長とこういった対談形式でいろんな意見交換をしようと思っているのですが、何かコメントはありませんか？

佐藤議員：一つお願いしたいのは、学生のうちから思考の幅とか固めない方が良い。柔らかい頭の卒業生を作りたい。同期とか先輩・後輩を見ても、柔軟性のある人間の方が自衛隊入ってから伸びたり、すごく仕事出来る人になっているような気がします。狭くなく幅広い視野が学生の時は必要。専門性は自衛隊に入っていくらでも出来ますから。

永岩会長：それともう一つ私が気になっているのは、せっかく防大が陸・海・空一緒に生活をしていながら、各自衛隊に入隊したならば各々のコンポーネントの色がしっかり付いてしまう。いまや統合の時代と言われながら連携を高めようとするという弊害がある。そのような時に防大生といった過去のキャリアを持ったことで、何とかいい形で統合運用の形が出来ると思うのですがそのところはどうかお考えですか？

佐藤議員：私は「統合運用」という言葉が嫌いで、本来は「統合作戦」なのです。実は大綱中期のあり方検討の中間報告を出したのですが、恥ずかしい話ですが今回始めて統合の観点から能力評価をやりました。今までの防衛力整備の能力評価は陸・海・空の自衛隊が夫々のある程度のシナリオに基づいてやっていましたが、今回は新規に蓋然性が高いようなものも含めて統合でやったのです。初めて統合の観点から問題点を洗い出したら、皆ギャットと言うくらいのもので出てきました。それを纏めて課題としてある程度正直に明らかにした。これをやるかどうかは政治のリスクとして政治が負ってくださいよというくらい今回は真剣にま

じめに統合でやったのです。それで今防衛省の改革も統合とUCの一体化を軸に進めていますけれども、そういうことが進めば進むほど防衛大学校の統合という原点が統幕学校の高級課程に引き継がれて来ますし、UCの一体化の部分でも制服だ、背広だという垣根を築くのではなくて、自衛官は自衛官で仲良くするのは大事ですが、背広とも一緒にやるような意識付けを防衛大学校の時にチョットでもやってもらおうと有難いなあとと思います。今、陸上自衛隊の総監部には文官を置いているのです。それで今度は海・空の司令部にも置こうとしています。これからはUC一体化として内局にも制服を定員として配置します。NSCも同様です。そういう時代になってきました。統合とUnifiedというのでしょうかね。そういう風になっていくので今まで以上に法律事項もある程度勉強もしなくてははいけないでしょうし。中々ハードルは高いのでしょうかけれども将来的には防衛大学校にも法学部をとということがUCが一体化になればなるほど…

永岩会長：宇都議員のところでも同じ話になりまして。防衛大学校の中に法科を作るということが何でしっかり議論されていないのだろうか？と。

佐藤議員：今までは「役割分担」ということだったのでしょうね。

永岩会長：それは提言として上げられることであると思います。さてそれでは防大の同窓会に対して議員、なにかコメントございませんでしょうか？

佐藤議員：同窓会には個人的にはもう少し政治的な発言をして欲しいなと思います。して良いと思うんですよ。自由な組織ですから。政治に物申さなければ、自衛隊の、防衛大学校卒業生の仕事がやりにくくなる。全部政治が決めますから、所詮。給与も宿舍の問題も最終的には政治が決めますから。

永岩会長：OBの中にはキャリア的にかどうか分かりませんが、頑なにピュアに政治的発言をするべきではないと今も思っている方が居る。卒業して何年もたつ人が。同窓会員は今2万4千名もいますが、これだけのパワーが何らかの役割を果たさないというのは実にもったいない。

佐藤議員：普通は皆同窓会としてやって居ますからね。それは自民党に偏るのではなくて、超党派であるべきですから、安全保障は。ですから同窓会の中にシンクタンクのような提言を各政党に向かってするようなものがあったら良いのでは。現役は無理ですが。

永岩会長：現役に迷惑をかけたくないといって発言しないという、現役を終わって何年もたつ人がそういう発言をするのもちょっとおかしいなと思うのですが。

佐藤議員：昔は、冷戦構造や55年体制の時は自衛官は駐屯地や基地の中で精強性を造成すれば良い時代だったのが、冷戦構造が崩れて、55年体制が無くなって、いやおう無く自衛隊の活動が、落合峻先輩の時からペルシャ湾以降広がってきて、正に今、弾道ミサイル対処だ、中国の船がどうだとか運用して何ぼの時代になってきていますから。そうすると余計政治と近くなった。現役が言えない部分をかかあるべき論を、今の状態を絶対良いと思っている人間はOB含めて誰も居ないですからね。法的な権限や態勢を含めて。それを色んなところから言うのが一番大事。ただ親睦だけではもったいないですからね。これだけの優秀な方、先輩方が集まっていますから。

永岩会長：1万4千人のOB、過去30有余年のキャリアを持った部隊経験豊富な、また、安全保障に係る見識の高いOBはいわば国家的財産みたいなものですから、そのリスト化を何とかできないかと考えています。全国の安全保障に関わるシンポジウムとか議論とか、若者に対するメッセージを送るであるとかの機会に、経験豊富な防大OBをどんどん活用していただければと考えています。具体的なリスト化は今検討中ですが、いずれにしろ、防大OBの安全保障に係る国家的財産を宝の持ち腐れにしたくないと考えています。自分では自分の財産をアピールしないですけれども、持っている財産は素晴らしいですから。それを地方でネットワークを作り、リスト化をしますでそれらサポーターで、応援団で喋らせるようなそういう機会作りに御協力をお願いしたい。過去OBの皆さんが書いた書き物とか本とかはリスト化しているのですが、その財産、見識、キャリアというのはリスト化がなっていませんから。出来ましたらOBのリスト化が出来た暁には、講演とかキャンペーンのときに是非御活用ください。

佐藤議員：今安全保障に関心が高まってきていますから。若い人にいかにアプローチして意識を変えてもらうかというのは自衛隊の後押しになりますから。今回「絆の道」という漫画を出版したのは、若者がターゲットなのです。漫画の方が入りやすく、実は自民党本部の前に麹町小学校というのが。もともと優秀な学校といわれていますが、そこの先生がこれはいいということで生徒に感想文を書かせた。立派ですよ。

永岩会長：そういった意味では議員に成られた当時からちょっと風が変わってきたとお思いませんか？

佐藤議員：今回の選挙結果が正に都市部で増えたというのが若者なんです。

永岩会長：掴んで離さないようにしなくてはならないですね。3年後にどのような風が吹くか分かりません。

佐藤議員：今正に中国とか北朝鮮の挑発に日本もしっかり、毅然とやってくれということ、防犯も一緒に自分の家に泥棒が入らないと防犯の重要性が中々わからないように、ちょっとヤバイと、日本もしっかりして欲しいと。自分の国は自分で守れという意識を持った若者が増えていると思いますよ。

永岩会長：最後に防衛大学校について熱き思いを語って頂きたいと思います。

佐藤議員：防大綱領の「廉恥」「真勇」「礼節」というのは自衛隊、自衛隊を離れた後でも一つの心の基軸線となりうるものだと思います。自分なりにその3つの言葉を解釈して、自分のものとして何か迷った時にその3つを振り返って判断するということを私は今でもやっているのですが。

永岩会長：学生から自発的に出た言葉というのが良いではないですか。

佐藤議員：はい。判断に迷った時にそこに立ち返ると良いと思いますよ。あの言葉は。

永岩会長：有り難うございました。

